

主体性を重んじる校風と伝統

伝統ある校舎

「県南の雄・栃高」一発展し続ける伝統進学校一



校長
大川 直邦

本校は、明治29(1896)年4月に栃木県尋常中学校栃木分校として開校し、その後幾多の変遷を経て、今年で創立124周年を迎えた、歴史と伝統ある、普通科男子校です。そして、「県南の雄」と称されるとおり、東京大学をはじめ難関大学に数多くの合格者を輩出するとともに、部活動、生徒会活動や学校行事にも積極的に取り組む「文武両道」の高校です。卒業生総数は29,000名を越え、地元はもとより、全国各地、さらには海外の様々な分野において、社会の中核を担い活躍していることは、本校の誇りとするところです。

校内には、創立当時の校舎が「記念館(御聖蹟)」として残されているほか、明治43(1910)年落成の「講堂」、大正3(1914)年落成の「記念図書館(養正寮)」という建造物があります。これら3つは、国の有形文化財に登録されていますが、敷地内に複数の有形文化財が現存する高校は、全国的にも希有な存在です。しかも、これらの施設は、今なお、授業や講演会等で利用され、また、地域の行事にも開放されています。このように、本校生は、歴史と伝統に誇りを持って、勉学はもとより様々な教育活動に取り組んでいます。

学習面では、日々の授業を大切にしつつ、土曜講座や長期休業中の課外授業による学力の向上を図りながら、日常的な面接指導や他校に類を見ない組織的な進路指導にも取り組んでいます。歴史と伝統を積み重ねてきた本校ではありますが、「教育における『不易』=変わらないもの・変えてはならないもの」をしっかり継承し、加えて、「教育における『流行』=新たな時代・社会の変化への対応」の先頭に立ち、生徒・教職員が一体となって、常に工夫・改善し続けています。

その方策の一つとして、平成29年度に文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業」の2期目の研究指定(6~10年目)を獲得し、「一人一研究」を中心に、本校独自の様々な取組を実践しています。SSHの様々な事業は、「時代が求める資質・能力の育成」、「挑戦する生徒の育成」、そして「進路実績」に、大きな成果を上げつつあります。

加えて、今年度から県の「学力向上に向けた指導体制モデル事業」研究指定(3年間)を受け、これまで以上に、「全国レベルの学力・進学実績向上」と、「次代を担うリーダー育成」を目指す取り組みを始めたところです。

また、学校行事・事業としては、「栃高スポーツ祭」、「芸術鑑賞会」、「栃高祭」、「東京研修」、「東北研修」、「ポストン研修」、「耐久レース」など、様々な行事が用意されており、生徒の主体的活動や自主的参加によって、毎年大盛況を博しています。

さらに、運動部・文化部の活動も大変盛んで、8割を超える生徒がいずれかの部活動に所属し、それぞれが自己ベストを目指すとともに、毎年、関東大会や全国大会、全国規模の学会等にも出場しています。

以上のとおり、学業のみならず、部活動、生徒会活動や学校行事にも意欲的に参加し、結果を残すなど、「文武両道」の伝統も引き継がれています。「二兎を追う者こそ、二兎を得る」の実践を通して、栃高生は大きく成長し本校を飛び立っていく、と言うこともできます。

栃高で学ぶ生徒達は、多様な個性を持っており、さらに、誰もが大きく飛躍する可能性を秘めています。生徒の主体性の育成や、切磋琢磨を促し、「生徒一人一人の夢を育み、志に高め、その実現を目指す」を合い言葉に、教職員が一丸となって取り組むを進めています。

最後に、このパンフレットを目にした中学生諸君。来春はぜひ本校に入学し、充実した高校生活を送るとともに、栃高の新たな歴史と伝統を、ともに築いていこう！



令和2年度生徒会長
北澤 剛

「踊れ、感じろ、集え。」

—— 踊れ、個性。 ——

栃高の魅力は、「個性」にあります。言いかえると、「強み」です。栃高で生活していると、ふとしたときに、「アイツってこんなことができるんだ」とか、「あの先輩は〇〇も〇〇もできて、すごいなあ」といった、自分にはない強みを見つけることができます。するとそれが「引き金」となって、自分も「よし、俺も頑張ってみよう」という気持ちになります。そこかしこで誰かが個性=強みを開花させ、それが絡み合っ、別の誰かのやる気につながる。しかも、強みを持っているのは1人や2人ではありません。720人全員が何かしらの強みを持っているのです。だから栃高では、それがいつでも起こりうるのです。個性が複雑に絡み合っお互いを高めていく様子を、私は「踊り」と表現します。

—— 感じろ、主体性。 ——

栃高が重んじるのは、「主体性」です。「主体的に動く心」を身につけることです。皆さんは、「自主的に動きなさい」と言われたことがあるかと思います。「決められたことを自分から進んでやる」という意味ですが、「主体的」になると、そこに思考がプラスされます。つまり、「何をすべきかも自分で考え、自分から進んでやる」という意味になります。栃高で行われるさまざまな行事は、生徒が主体となって運営します。普段の生活でもそうです。部活動の練習メニューを決めて実行したり、休み時間に教え合ったりすることは、まさに「主体性」の発揮です。栃高での生活は、主体的に動く心で身につける上で最適なものです。主体性は、将来、何らかの大きな壁にぶつかったとき、それを着実に乗り越えていくための、確かな力になることでしょう。

—— 集え、漢(おとこ)たち。 ——

皆さんは、自分が見ている世界が、世界のすべてだと思っていますか?入学当初の私は、そう感じていました。閉まっている窓から見える外の景色が、世界のすべてだ。しかし、今は違います。栃高での経験、普段の生活や行事を通した仲間・先生方との関わりが、私の世界の窓を開いてくれたのです。窓から身を乗り出してみると、そこには、素晴らしい景色が広がっていました。「視野が広がった」なんて生易しいものではありません。「世界が変わった」のです。そしてこの経験は、大人になっても絶対に忘れることはないでしょう。

皆さんには実際に栃高に入学して、自分の目で、これらが本当かどうか確かめてほしいのです。これらの魅力に気づいたとき、みなさん自身もきっと、大いに成長しているはず。私たちと一緒に、そんな経験をしてみたいと思いませんか?皆さんの入学を、新しい世界の発見を、お待ちしております。

校訓

独立自尊 和信敬愛
進取創造 質実剛健

教育目標

一人一人が、人間として調和のとれた発達をめざして努力するとともに、民主的社会の形成者として必要な資質を養い、自己と社会のあり方を広い視野に立って理解し、社会の動向に正しく対処でき、将来有為な人材となる。

1. 学力を高め、教養を深めて、判断力のある生徒となる。
2. 気力、体力の充実に努めて、健康で明朗な生徒となる。
3. 自主的、積極的に行動して、全力的で生き生きとした生徒となる。
4. 自他を敬愛して、協調性豊かな生徒となる。
5. 勤労と責任を重んじて、誠実で勤勉な生徒となる。